

「神の国のユニフォーム」

エフェソの信徒への手紙 4:17-24

2023年10月1日
野村 友美 師

<それぞれのユニフォーム>

ユニフォームというのは、とても面白いと思いませんか？何かの職業のユニフォームを着ていたら、周りの人は一目で「あ、あの人は警察官だ」とか「看護師さんだ」とか「業者さんだ」と判断することができます。

プロ野球のユニフォームなんかは、同じチームでもその試合がホームなのかアウェイなのかすぐわかるように、ユニフォームが分けられていると聞きました。そして、それぞれの野球チームを応援するファンも、着るんだったら自分が応援しているチームのユニフォームを着ますよね？

もしカープの応援席に、タイガースのユニフォームを着た人が座っていたら…ちょっとドキドキします。ユニフォームは、それを着ている人の所属や立ち位置、そしてその人がどうふるまうのかを、他の人に知らせる役割を持つ服だと言えるでしょう。

逆に言えば、ユニフォームが私たちのふるまいを決める、という面もあるように思います。

例えば、結婚式に出席するための綺麗なスーツやドレスを着て、お掃除を始めたり、木に登り出す人はあまり居ないでしょう。寄り道禁止の学校の制服を着ていたら、レンガ通りやゆめタウンでも人の目が気になって、せっかく遊んでいてもソワ

ソワするかもしれません。私が牧師のガウンを着たままでご飯を食べに行こうとしたら、皆さんはたぶん「ちょっと待って！」と止めてくださいますよね？

もちろん、着ている服を気にしすぎて振り回されてしまうのは、あまり良いことではないでしょう。それでも、私たちは自分が着ている服に、「ユニフォーム」になるべくふさわしくふるまおうとするものです。

では、皆さんは今どんな「ユニフォーム」を着ておられるでしょうか？普段の生活の中で、どんなユニフォームを着た人としてふるまっておられるでしょうか？

今日ご一緒にお読みしている聖書の言葉は、私たちの「日常生活のユニフォーム」について語られているものです。

このエフェソの信徒への手紙を書いた人物、パウロは手紙を読む教会の人たちにこんなことを勧めています。

あなたたちはイエス・キリストについて聞いて、イエス・キリストに結びつけられて、イエス・キリストに表された神様の真実を知っている人たちです。だから以前のような生き方をしないで、古い人を脱ぎ捨てなさい。神様にかたどって造られた新しい人を身に着けて、神様の真実に基づいた生活をしなさい。そう、「脱ぎ捨てる」とか「身に着ける」とか、パウロはここで人の生き方について、まるで服を脱いだり着たりするみたいに表現しています。それぞれの教会で彼の手紙を読む人たちに、つまりイエス様のことをもう知っていて、イエス様を信じているはずの人たちに、

パウロはこう呼びかけているのです。

今までの古いユニフォームは脱いでしまいなさい。神様に属する人の、新しいユニフォームを着て生きてゆきなさい、と。

<キリスト者のユニフォームとは>

神様に属する人のユニフォームって、一体どういうものでしょうか？他のユニフォームとどんな違いがあるんでしょうか。クリスチャンでもそうじゃなくても、たぶん外見とか服装とか普段の生活の仕方はほとんど変わらないと思います。

じゃあ、クリスチャンはそうじゃない人より穏やかで優しくて性格が良い、でしょうか？

言うこともやることも立派で、いつも清く正しくて、聖書に書いてあることは全部しっかり守れて、周りの人から尊敬されるような人が本当のクリスチャン、だと思いませんか？本当に？

そうだとしたら、私は今すぐこの説教壇から降りて、牧師を辞めないといけません。

そんな完璧な人になれたらとても素敵ですけど、残念ながらありませんし、なれる自信もありませんから。みなさんをご存知の通り、教会には本当にいろいろな人がいます。年齢も性別も、性格も環境も、仕事も人生経験も。教会以外の場所と同じように、いや、もしかしたら他の場所よりもっといろいろな人が集まっているのが「教会」という場所かもしれません。

じゃあ、クリスチャンとは何者でしょうか？

それは「こんな私のことも神様は愛しておられる」と知っている人です。「神様を無視して悲しませるばっかりの、どうしようもない私の罪をイエス

様が代わりに背負って十字架で死んで赦してくださった」と知っている人です。

「イエス様の死と復活の出来事が、私に神の国を生きる永遠の命を与えてくださった」と信じている人です。そして「私だけじゃない他のすべての人が、どこのもんな人も例外じゃなく、神様から愛されて、イエス様によって赦された」と信じている人です。他には何の条件もありません。

だからこんなにいろいろな人が教会にはいるんでしょうね。

あなたも私も神様から愛されて、どうしようもない罪を神様から赦されて、神の国に招かれている人だ。この神様の真理に基づいて、神様との関係を、そして他のすべての人との関係を生きる生き方が、クリスチャンのユニフォームなんです。

だからパウロは、今日の箇所の初めにこう言っています。

「わたしは主によって強く勧めます。

もはや、異邦人と同じように歩んではなりません。」

ここでパウロが「異邦人」と呼んでいるのは、イスラエル以外の民族やよその国の人たちのことではありません。私たちを愛して赦して招いておられる神様を知らない人。

神様の絶対的な愛を信じていない人のことを、パウロはここで「異邦人」、神様を知らない人たちと呼んでいるのです。

パウロはそんな「異邦人」たちの生き方を、とても激しくて手厳しい言葉で説明しています。

愚かな考えに従って歩いて、知性は暗くて、無知でかたくなで無感覚で自分勝手にふしだらで…ものすごいですね。

パウロが言いたいのは決して「神様を知らない人は、私たちより劣っている愚かな人たちだ」なんという傲慢な悪口じゃありません。本人たちは気がついていなくても、神様の愛と赦しを知らないで生きるのはこんなにも孤独で、薄暗くて、悲しいことなんだ、とパウロは訴えているんです。

そして、この手紙を読むすべての教会に、そこに一人一人に叫ぶようにして呼びかけます。

あなたたちはもう、イエス・キリストを知っているじゃないか。神様がどんなにあなたたちを愛して、赦して、一緒に生きようと願ってくださるか、あなたたちはもう知っているはずだ。

だから、知っているのに知らない時と同じような生き方をするのはもうやめなさい。

そんな孤独で悲しい生き方は手放して、神様の愛と赦しをユニフォームにして生きてゆきなさい！激しい言葉で、情熱を込めて、パウロはそう訴えているんです。

<神の国のユニフォームに着替えて>

ある時、イエス様がこんなたとえ話をなさったことを、福音書は伝えています。誰も、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れたりもしないだろう？だって、そんなことをしたら古い皮袋が破れてしまって、せつかくの新しいぶどう酒も流れ出ていってしまうじゃないか。新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れなくてはいけない。このたとえ話をイエス様がなさったのは、ある人々がイエス様

の弟子たちの生活態度について、イエス様に文句を言ったからです。というか、彼らは本当はイエス様ご自身のやり方に嫌味を言ってやろう、と思ったのでしょうか。

彼らはイエス様にこう言っています。

みんなが尊敬しているあの預言者、バプテスマのヨハネの弟子たちはイスラエルの決まりごとの律法をちゃんと守って生活しています。聖書をしっかり研究して、律法を厳しく守っているファリサイ派の人たちの弟子も同じです。

なのにイエス様、あなたの弟子たちときたら！大事な律法よりも、他のことを優先してるじゃありませんか。この時代のイスラエルの人々にとって、神様から与えられた律法をちゃんと守ることこそが信仰の証明でした。律法をしっかりと守れる人が良い信仰の持ち主で、律法を守れない人はどんな事情があっても、信仰の弱い罪深い人だと判断されました。

ですから、この人たちはどうやらイエス様にこんな不満を伝えたかったようです。

あなたの弟子たちもあなたも、ちょっと信仰が弱いんじゃないんですか？律法を守らないそんな生き方で、神様に従ってるなんて言えるんですか？彼らは別に、イエス様と弟子たちに意地悪を言っているつもりではなかったでしょう。

自分たちが今まで大事にしてきた生き方、自分たちの価値観から見て「これが正しい、これが良いことだ」と思えることを、イエス様たちにも教えてやろうという、言わば彼らなりの親切だったのだと思います。何が一番大事か、教えてあげなきゃ！というところでしょうか。もちろん、律

法は神様からイスラエルへの大事なプレゼントでした。この世界のすべてを造られた神様を信じてついて行くこと。神様とお互いを愛して大切にすること。これが、律法の全部に共通している目的です。

ですが長い歴史の中でいつの間にか、そんな律法の目的よりも律法を守ることそのものが優先されるようになっていました。自分たちの「これが正しい、これが良いことだ」が、いつの間にか神様そのものにすり替わっていることに、彼らは気がつかなかったのです。だからイエス様は、その人たちの「正しさ」を「あ、それ間違ってるから」なんて切り捨てたりはなさいませんでした。身近なたとえ話を使って伝わりやすく、イエス様は彼らにこうお答えになったのです。

新しいぶどう酒を入れるには、新しい皮袋が要るだろう？同じように、神様からの新しい恵みを受け取るためには、新しい生き方があなたたちにも必要なんだ。私はそれを今あなたたちに見せているんだよ、と。神様からの新しい恵み。

それは他でもない神様ご自身が、私たち人間への愛を最優先にしてくださったことです。

神様ご自身でもある神様の独り子が、人間としてお生れになって、私たちが味わうすべてのことを一緒に味わってくださったことです。

イエス様の言葉と生き方、そして十字架での死と復活が、神様からのこの愛をすべての人に教えて、すべての人の罪を赦して、すべての人が神の国の命を生きるように招かれていることです。

この神様の愛を知らない時の古いユニフォームと、神様の愛を知っている人の新しいユニフォー

ムは重ね着できません。

教会と家と他の場所で、自分の都合でバタバタ着替えるものでもありません。

新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れないと、ぶどう酒も袋も無駄になってしまうのと同じように。神様の愛と赦しを知った私たちは、神の国の新しいユニフォームを着てないと、いつの間にかまた古いユニフォームに振り回されてしまいます。だからどこに居るときも、誰といるときも、生活のすべての場面で神の国のユニフォームを着ているように、パウロは今日私たちに教えているんです。神様から愛されていることを知っている人のユニフォームを着て、安心して雄々しく生きなさい。神様を無視する自分勝手な罪から、救われて赦されたことを知っている人のユニフォームを着て、いつでも神様の愛に従う生き方を祈って願い求めなさい。

神様がすべての人を愛しておられると知っている人のユニフォームを着て、自分も他の人も大切に尊重して生きなさい。この地上での命だけじゃない、神の国の永遠の命を知っている人のユニフォームを着て、希望を持って生きていきなさい。そうパウロが勧めるとおりに、私たちは神の国のユニフォームを着てそれぞれの日常を歩んでまいりましょう。重ね着も着替えもいりません。いつでも神様に信頼して、神様の愛を抱きしめて、神様に希望を置いて祈りながら、感謝しながら、人生の旅路を歩んでいけますように。

お祈りいたしましょう。